

2013(仏暦2556)年5月号(第86号)

万行寺寺報

Mangyoji Jihō

発行

浄土真宗本願寺派

万行寺 山崎信充

〒385-0003

長野県佐久市下平尾461-1

電話 0267-67-2460



■住職法話

善人なをもて往生をとぐ、いはんや悪人をや

■仏事のイロハ

おしいただかず一回だけ

■本願寺の本

13歳からの仏教

■住職 子育て日記、編集後記

Photo

佐久市内で南方に目をやると^{たてしな}蓼科山が見えます。少し丸みをおびていて、男性的な浅間山とは対照的です。春先に見れる頂上の残雪は、何か白い帽子をかぶっているようでかわいいです。

住職 法話

善人なをもて往生をとぐ、いはんや悪人をや

二〇〇一年に大阪・池田小児童無差別殺傷事件を犯した宅間元死刑囚（刑執行済み）を精神鑑定した医師が、その鑑定書を掲載した本を出版するという新聞記事を見ました。

「自分の命は何十万人の命より重たい」「亡くなったのが八人程度で死刑は割に合わない。納得できへん」「人を殺すことを考えたらモリモリ」と元氣が出てきた。もう道連れで、行きがけの駄賃みたいな感じで無茶苦茶やっつたろうと思った」「国家の命令で戦争しているような感じ。びびつてもせえへん。何となくおわりやなあ」と。記事に

載っていた本人の言葉を並べただけでも恐ろしいです。自らの人生を「生まれてきてしんどいだけの繰り返し」と振り返り、事件直前は生きる気力もなく自殺しようとして果たせなかったそうです。宅間元死刑囚には、宗教はどう映っていたでしょうか。

また、少し前になりますが、作家の荻野アンナさんが、刑務所の懲役犯に向けて法話をする僧侶、教誨師との出会いで親鸞さまの教えにふれ、「煩惱にも善玉と悪玉」と題した記事も目にとまりました。

善人なをもて往生をとぐ、いはんや悪人をや

という『歎異抄』の言葉にふ

れ、人殺しは悪人で、殺さなければ善人、と決めつけられるほど、この世は単純ではない。戦争での殺人は英雄行だが、平和な時ならLB（再犯の無期懲役囚などをさす）行きた。一生殺さずに済む人は、殺す「ご縁」をいただいでいないだけと、親鸞さまの『悪人正機』の教えを味わっています。

「犯罪」という視点から、『悪人正機』の教えを見ると、生々しく、そしてわかりやすく伝わります。その教誨師に向けられた、ある無期懲役犯の言葉が印象的でした。

「先生、無期刑になってここに座ると、考え方、変わるよ」

殺人率という統計をみると、日本は世界でも一番低い水準で、戦後最低を更新し続けているそうです。十万人に一人いないほどの率だそうです。報道のみで、身近に犯罪があるわけでもなく、まして戦争があるわけでもなく良いことではありませんが、「罪」という意識が平和慣れした日本人には薄れていつていることは確かかなようです。

『悪人正機』のご法話で聞かれる「罪深き私」というフレーズは、私もよく使わせていただきますが、死刑や無期の刑の自分を想像してみないと、この教えは他人事なものかもしれません。



仏事のイロハ

おしいただかず一回だけ

お焼香の作法は、各宗派によって少しずつ異なっているようですが、おおむね、次の二点がポイントになっています。すなわち、一つは、つまんだお香をおしいただくかどうかということ。今一つは、お香をた

もう少し詳しく作法を述べますと。

① 尊前そんぜん（ご本尊の前）の二、三步手前で、軽く頭を下げる。

② 進み寄って、まず香盒かうごう（お香がある器）の蓋ふたを取ってその縁かぢにかけ、お香を一回つまんで、そのまま香炉かうろに入れる。この場合、お香は額かぶにおしいただかない。また、お香をつまむ前に合掌がっしょう礼拝らいはいする必要はない。

③ 香盒かうごうの蓋ふたをして、合掌がっしょう礼拝らいはいする。

④ 礼拝らいはいが終われば、二、三步後退して軽く頭を下げる。以上が基本です。覚えておいて下さい。

く回数です。三回のところもありませんし、二回のところもあり、一回もあります。

そんなわけで、自分の宗派の作法を知っていれば何でもないことなのに、知らないと案外、戸惑ったり、ぎこちなかったりします。

浄土真宗本願寺派では、「お香はおしいただかない」で「回数は一回」です。

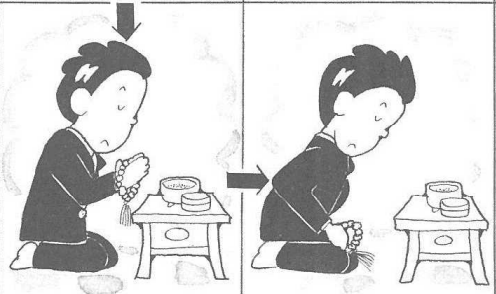
「仏事のイロハ」末本弘然著、本願寺出版社刊より

<焼香の作法>



② お香を1回つまみ そのままたく

① 軽く頭を下げる



③ 合掌礼拝する

④ 2,3歩退き 再び頭を下げる

「万行寺門信徒会」より

万行寺門信徒会会員におかれましては、昨年度もご理解とご協力賜り、感謝申し上げます。浄財として大切に使用させていただきました。

さて、本年度の年会費をお願いする時期となり、別途送付させていただきます。何とぞ、本年度もご理解とご協力をお願い申し上げます。 合掌

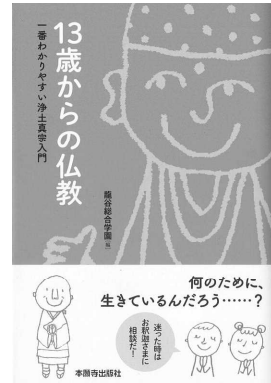
～本願寺の本～

13歳からの仏教

一番わかりやすい浄土真宗入門

龍谷総合学園 著／本願寺出版社 刊

定価 1,260円(税込)



かわいいイラスト満載でお届けする新しい仏教の入門書！

本書では、お釈迦さまの生い立ちや親鸞聖人の生き方を、カラーイラストとともに、わかりやすく紹介。仏教とは何か、お釈迦さまの教えとは何か-13歳から大人まで、すべての悩める日本人にとって役立つヒントが詰まった一冊。(HPより抜粋)

～住職 子育て日記～

暖かくなり一緒に散歩に出かけています。食事と一緒に取り分けて食べられるようになり、私たちも自然と薄味になりました。(たまに濃い味が欲しくなります)



最近、また教育問題が取り沙汰されています。特にいじめの問題は、今後、娘の時代にはどうなっていくのか今から心配になります。今もそうですが、いつの時代も人間関係の悩みは尽きないと思われまます。仏教と一緒に、身をもって感じながら苦悩を乗り越えていくしかないと思っています。

編集後記

「住職法話」は、あれだけ物議をかもした元死刑囚の鑑定書出版という、個人情報保護法施行後では例がなく波紋を広げそうです。◆また、教誨師きょうげしのほうは、決して犯罪を肯定するわけではありませぬ。刑務所で法話をし体験されていることは、見方を変えれば身をもってした仏教の教えが伝わっているのではないかと感じたからです。『悪人正機あくにんしょうき』の教えについては、またの機会に詳しくと思っております。◆念仏弾圧を受け、流罪になり、罪人として扱われた親鸞しんらんさまのことが思い起こされます。

